

JR 美 祢 線 災 害 復 旧 対 策 調 査 特 別 委 員 会

1 日 時 令和 7 年 3 月 11 日 (火曜日)

午前 9 時 30 分～午前 9 時 54 分

2 場 所 委員会室

3 出席委員 村 田 弘 司 委 員 長 石 井 和 幸 副委員長
竹 岡 昌 治 委 員 山 中 佳 子 委 員
三 好 睦 子 委 員 岡 山 隆 委 員
秋 枝 秀 稔 委 員 杉 山 武 志 委 員
戎 屋 昭 彦 委 員 藤 井 敏 通 委 員
末 永 義 美 委 員 山 下 安 憲 委 員
井 上 敬 委 員 竹 下 駿 委 員
三 善 庸 平 委 員

4 欠席委員 な し

5 委員外出席議員

荒 山 光 広 議 長

6 出席した事務局職員

岡 崎 基 代 議会事務局長 石 田 淳 司 議会事務局議事調査班長

寺 埜 真 輔 議会事務局庶務班長

7 説明のため出席した者の職氏名

な し

8 会議の次第は次のとおりである。

午前 9 時30分開会

○委員長（村田弘司君） おはようございます。皆さんにお願いですけれども、特別委員会の前に、本日は東日本大震災発生からちょうど14年です。

したがいまして、委員会を始める前にですね、黙祷をささげたいと思いますので、御協力をよろしくお願いします。

じゃあ御起立をお願いします。

〔黙祷〕

○委員長（村田弘司君） 黙祷おなおり下さい。ありがとうございました。

それでは、ただいまより、JR美祢線災害復旧対策調査特別委員会を開会をいたします。

議長、報告等ございましたら。

○議長（荒山光広君） JR特別——この特別委員会も回を重ねてまいりましたけども、もう発生から2年が——2年以上経過してます。委員の皆さんの忌憚のない御意見をいただいて、委員長のほうで取りまとめをよろしくお願いしたいと思います。

○委員長（村田弘司君） 前回2月18日の特別委員会では、JR美祢線の復旧に関して要望していこうという方向性を皆さん方と確認したところであります。

本日の特別委員会では、その内容について、もう少し協議をいたしたいというふうに思っております。いま一度、委員の皆さんから御発言をお願いをいたしたいと思います。いかがでしょうか。竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） ちょっとタブレットに送ってください。皆さんのお手元に資料が届いたでしょうか。よろしゅうございますか。

それでは、私のほうから、以前全協でもちょっとお話を申し上げましたが、委員会においては、何も言うてないということで再度申し上げたいと思います。

まず、本委員会を立ち上げた調査事項は、公共交通としてのJR美祢線の在り方についてということと2番目が復旧に向けた情報収集、問題、課題の把握及び調査・研究についてと、それから3番目がその他、設置目的のための調査事項についてということでございました。

しかしながら、協議会のほうでいろいろ御苦勞なさって私どもは報告を受けたわけではありますが、この時点でばちばち要望を出して、そして、できればですね、この本議会中にこの委員会を終結して、また、新たなまちづくりについて、委員会を

起こすほうがいいんじゃないかという提案でございます。

したがいまして、たくさん写真等撮っておりますが、提言のところを見ていただきたいと思います。

一番最後のところ、いろいろありましたが、写真の説明等は省略させていただきます。

できればですね、これ執行部と歩調を合わせていく必要があるだろうと思うんですが、財政的な、我々は国の方針ですね、地方自治体も3分の1負担をすべきだという話も出ておりますが、ここではBRTと書いてありますが、これは仮説でありまして、もしBRTをやるということになりますと上下分離ということもありますので、自治体負担が出てくるだろうと、それを想定したですね、地方自治体の負担軽減を要望すべきではなかろうかというのが1点でございます。

それから、JRの広島支社に対してはですね、1つ目は、まず美祢市内の駅周り、今JRが示してるのは、駅側からまちを見てます。そうじゃなくて、上から見ていただくと非常に、JR駅がもし列車が通らんということになれば駅裏と駅の表ということで、非常にまちづくりがづくりにくいと。

今、一方ではですね、まだ予算決算委員会で審議が継続しておりますが、まちづくりを36億かけてやろうということで、今中心市街地形成を図ろうとしております。

そうした中で、もし、美祢駅周辺が軌道敷がなくなれば、水路だとか生活道だとか非常にスムーズにいくんじゃないかということで、美祢駅の軌道敷をまちづくりのためにですね、JRに対して協力していただけないだろうかということが1点でございます。

それから、2点目が於福も同じようにですね、316あるいは道の駅を挟んで非常にどう言ったらいいですか、バスが駅のほうに入らないという問題も、今代行バスがなっておりますが、そうしたところを、例えば英彦山の道の駅の裏にあります旧駅に軌道敷が残ったままその上にですね、施設がつくってあったりしております。そうしたことも含めて、於福の活性化を図るためにも必要じゃなかろうかということで、協力を要望する。

あるいは、厚保駅より湯ノ峠の間の仮にですよ、今提案されてあるBRTのことで専用道路にするということになれば、行政負担を出すならば、これは日本全国でも初の提案だろうと思うんですが、公道にしてもらえんじやろうかなあと、というこ

とは、厚保の方が316使うのは非常に不便なんですね。したがって、そういうことも1つ。

それから、もう1つは、熊の倉から中村に出る——横坂へ抜ける山中線、これも非常に不便であり、これ杉山委員も、ちょっと少しなんですけど休憩時間に話をしましたが、これがもしあと数キロほどは増えるんですが、非常にお互いが負担が少なくなるということも考えるんじゃないだろう——考えられるんじゃないだろうかということで、これも難しい話ではあろうが要望してみたい。

以上のことでですね、合計しますと4点なんですけど、それを要望することによって、この委員会の役割は終結できるんじゃないかなと。そして、新たにまちづくりを特別委員会をつくるならばですね、やはり美祢駅のJRとの関わり合いもたくさん出てきます。

今、我々が持ってる特別委員会が2つあるわけですが、一方でまちづくりやられておられます。それは政策提案ということで引き続きやっていただいて、我々は、この中心市街地形成のまちづくり事業について特別委員会をつくって、正副委員長大変だろうけど、引き続きお願いをして、JRとの関係も求めていったらなというふうに私は思いますので、委員長のほうでよろしくお取り計らいをお願いしたいと思います。

以上です。

○委員長（村田弘司君） 今、竹岡委員のほうから大変美祢市の将来に向けての建設的な御発言、御意見がございました。ほかに皆さん方、何かございませんか。井上委員。

○委員（井上 敬君） 大変すばらしい御意見だなと思うんですけども、新たな特別委員会をつくるということなんですけど、このJR美祢線の特別委員会のほうを終結して新たにつくるとするのか。まだ、JRのほうは一旦残しつつ、新たに別でつくるのかってということも考えてもいいのかなと。

なくして、新たに切り替える——なければならないということもないんじゃないかなって感じが少しするんですけども。

○委員長（村田弘司君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 今、先ほど井上委員の貴重な提案をいただいたんですが、私ではですね、いわゆるBRTになるのか、この軌道敷を使うのか。美祢線の在り方等に

については、恐らく今は任意の協議会ですが、法定協議会ができるんじゃないかなあという気がいたします。したがって、当初に調査目的を申し上げたようにですね、この委員会の役割はもう終わったんじゃないだろうかというふうな気がいたします。

したがって、美祢駅のところ、あるいは於福のところ、そうしたものも今から要望等をしていただきたいんですが、できれば、新たな特別委員会をつくってですね、そこで、引き続きその分だけは取りながら続けていったらいいんじゃないかなというふうに思うわけですが、いかがなものでしょうか。

○委員長（村田弘司君） 竹岡委員の御意見、それから井上委員の御意見、非常にどちらも大変すばらしいと思います。

今、まだこの特別委員会、本事案に関する特別委員会は収束しておりませんので、いずれにしても、今竹岡委員がおっしゃるのは、このJR美祢線のいかが果たして復旧していくにしても、美祢市のまちづくり全体に関与することであるんで、もっと広義にしたほうがいいんじゃないかというお考えだろうと思います。

それと、今法定協議会の話が出ましたけれども、今美祢線利用促進協議会、美祢市からは議長が委員会出ておられます。で、沿線3市、それから県、JRでいろいろ協議をしていただいとるわけですが、これ法定協議会じゃないです。法が定める協議会じゃないですんで、決定権を持ってません。

恐らく将来的にはですね、法定協議会が立ち上げられて、その中に美祢市も入っていくんじゃないかと思います。そのときに、我々が鋭意に前向きに関与するには、やはりそれなりの美祢市議会としての対応を取っておいたほうがいいんじゃないかというふうに思います。

ただし、今は、今日はですね、今日は一応皆さん方の意見をちょうだいをして、そして、またそれを取りまとめた上で、御意見を皆さんにまたお諮りをしようと私は今日思ってますんで、取りあえず今日皆さん、忌憚のないところを出していただきたいというふうに思います。藤井委員。

○委員（藤井敏通君） 冒頭、竹岡委員のほうから、JR美祢線の災害復旧対策特別委員会というところの最後にですね、美祢市の中心市街地形成調査対策特別委員会の設置ということが最初の1ページ目の一番最後にありますよね。

それで、この提案っていうのがですね、ちょっと私にとってはかなり唐突のように感じるわけなんですよ。

と申しますのが、この新しいっていうか、新たな中心市街地形成調査対策特別委員会っていうのは、要は今複合施設とかああいうふうなことも踏まえて、この中心市街地をどうするかっていうようなことでいろいろと執行部のほうから計画が出たりするんですけども、一応それともまた関係もあるわけですね。

で、それ、今提示されてる計画っていうのは、美祢駅周辺をどうこうというふうなことよりも、むしろ市役所と美祢駅を結ぶこの辺の一带は複合化施設等を建設、図書館の複合等の建設することで、まちづくりをしようというお話がメインだったと思うわけです。

それで、ここで提言されてる美祢駅等の一体化のまちづくりが重要ではないかということになりますと、今、執行部のほうから提言されてる複合化施設というあそこも含めて、この美祢駅の周辺もひっくるめて、一体的にもう一度このまちづくりを検討しようじゃないかということでしょうかね。ちょっとそこがちょっと唐突な提案というふうに感じますんで。

○委員長（村田弘司君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 大変申し訳ございません。仮称って書いたつもりなんです、仮称という字が抜けておりますが。

現実にはですね、都市再生特別措置法による今回予算化されてる中心市街地再編事業調査特別委員会にしたいと思ってるんですよ。

というのが、これが実は補助金の中身でございまして、半分が補助金でやれるという国交省の予算を使った中心市街地のいわゆる再編といいますか、そうした事業をやろうと今回当初予算、1丁目1番地の話じゃないけど出てきました。

で、それを中心にですね、実は美祢駅周辺も入っておるんですよ、その中に。入ってるんですが、駅裏は全く無視されてるような状態だから、できればこれをもしJRから払い下げを受ければ、駅裏も含めて、あるいは病院のほうから流れてくる水路なんかもなかなかオーケーいただけないんで、実は小さなヒューム管1個通すのにも7年かかったという経緯があります。

そうしたことを避けたいということで、調査項目とすれば、簡単に言えば中心市街地形成になるわけですが、事業とすれば、先ほど申し上げたいいわゆる中心市街地の再編事業のいわゆる特別措置法に基づく事業、これを含めて——含めてじゃない、これ主体なんです、実は36億か40億なのかもしれませんが、そうした大事な事業

をやろうというのに、議会が委員会もないというようなことなんで、できればそちらに移行しながら、引き続きJRとのことも含めてお願いをしたらなということで、委員長のほうにお取り計らいをお願いしたわけです。よろしくひとつお願いします。

○委員長（村田弘司君） 藤井委員、よろしいですか。今のお答えでね。

ちょっと整理しましょうか。本特別委員会はJRの美祢線の災害復旧に対する対策と調査を目的といたしております。これを具現化をしていくということは、先ほど私申し上げたとおり、まちづくりに密接に関係しております。

しかしながら、今回は一応ですね、ここに竹岡委員が最後の提言書を出しておられますけれども、こういうふうな形で出していくのか、もっと言葉を変えたほうがいいのか。もしくはこれから引いていくほうがいいのかいろんな御意見もあるでしょうけれども、一応精査した上で理をしてですね、要望書そのものをどういうふうな形で出そうかということを先ほど申し上げましたけれども、再度もう一度この特別委員会を開催しますんで、そのときに皆さんにお諮りをしたいというふうに思っています。

その先に、先ほど井上委員もおっしゃったけど、JR調査特別対策等特別委員会がそのまま並行して、また新たに特別委員会をつくったらいんじゃないかというお考えだろうと思います。その辺はですね、また、その次のステップで考えていければいいんじゃないかというふうに思ってます。

ただし、今竹岡委員がおっしゃったことは大変重要なことです。交付金事業のほうにも関わってきますし、国の補助事業にも関わってきますし、我々は御承知のように、大変お金があんまりない市ですから、いかに国のお金を使わせていただいて美祢市を振興していくほうがいいかということにもつながってきますんで、そういうことは、皆さん恐らく共通の思いだろうと思います。ということで、どうでしょうか。ほかに御意見ありませんか。三好委員。

○委員（三好睦子君） 意見をたくさんということなんでちょっとお尋ねするんですが、竹岡委員の先ほどの提案説明の中で、横坂の山中線が狭いのはおかしい、横坂と山中線が狭くて、しかも県道なんですけど、狭くて離合が本当に難しい、困難なところも部分的にはありますが、この今回のJR美祢線との関わり合いについて、もう少しお尋ねしたいんですけどよろしいでしょうか。ここ県道なんですけれど。

○委員長（村田弘司君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） それこそ討論みたいになったんですが、私や杉山委員が考えてるのは、万が一BRTになった場合、316を使おうと。いわゆる本来は軌道敷を使うのが、そして専用道路をつくるのが本来なんですけど、たまたま316が並行して走ってます。

で、残念ながら、316はこの美祢から今度は厚狭のほう湯ノ峠を通過して、厚狭、山中を通過していくというここから外れてるんですね。そこで熊の倉、同じ県道をもし、こないだ説明があったように必ずしも軌道を通らなくてもいいと。だから、若干ほかの道使ってもいいというお話であったんで、いやそれも1つの選択肢としてあるんじゃないかなと、同じ金をかけるならばと、こういう考え方ですね。いやそれはやはりJRが厚保から湯ノ峠は軌道敷を使いますよというならば、公道にしてもらったというような話をしたわけです。

これは、それこそ全国でそんな話を、ときの話が出てくるっていうのは初めてだろうと思うんですが、同じ金を使うならば、効果的な経済効果がある使い方をしたほうがいいんじゃないかなという気持ちで、ただ、速達性がちょっとなくなるのは事実です、数キロ延びますんで、それは事実です。

ですが、厚保から湯ノ峠の間に鉄橋が3つあります。3つあるうちに1つだけ過去で改修工事をやって、あと2つは今回やり替えるのか、そのまま使うのか、まだ見えておりませんが、鉄橋が3つあるということも1つの私たちの意見としてですね、そういう案もあるんじゃないかなとこういう気持ちで申し上げました。

以上です。

○委員長（村田弘司君） よろしいですね。ほかにありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（村田弘司君） それでは、ただいまの皆さん方の御意見を踏まえまして、要望の案を作成し、次回の特別委員会で、先ほどお話ししたように、皆さんにお示しをいたしたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（村田弘司君） それでは、そのように取り計らうことといたします。

ちなみに、次回の特別委員会は3月13日という日にちを使ったらなんですけども、明後日ということで、明後日に一般質問がありますんで、一般質問が終了後に開かせていただければというふうに思いますので、よろしく願いをいたします。

その他、委員の皆さんから何かありましたらお受けをいたしたいと思います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（村田弘司君）　ないようでしたら、これにて本日の特別委員会を閉会いたします。お疲れでございました。

午前 9 時54分閉会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

令和7年3月11日

JR美祢線災害復旧対策調査特別委員長